

### 白ワイン「五月長根葡萄園」発売開始 今年も良質な出来栄え



横断幕を掲げ、第一便のトラックを笑顔で見送る参加者

(株)エーデルワイン(花巻市大迫町)は5月31日、2015年産白ワイン「五月長根葡萄園」の発売式を同社で行いました。  
社員や生産者たち約60人が参加し、藤館昌弘社長が「生産者が手塩にかけたブドウを使い、丹精込めて造った。ぜひ、今年の出来栄えを味わってほしい。」とあいさつ。関係者がテープカットしたあと、参加者たちは出発したトラックを拍手で見送りました。  
同ワインは、原料に町内のエコファーマーに認定された農家が栽培しているブドウ「リースリング・リオン」を使用。爽やかな香りで、程よい酸味と果実味のある味わいが特徴です。

### 組合員の温かな思いを被災地へ 矢沢支店が呼びかけ、米1,650kgを熊本へ



被災地へ送る米を仕分けする職員

J A 矢沢支店(花巻市高木)は、4月に発生した熊本地震直後、支店管内の組合員に支援米の提供を呼びかけ、集まった1650kgの白米を被災地へ届けました。  
支店には1カ月間で約200人の組合員から、次々と米が運び込まれ、青年部が精米し、職員が10kgずつ分けて被災地へ送りました。米は指定避難所以外で物資が不足している場所での炊き出しとして振る舞われました。  
発起人の菅野秀和職員は「東日本大震災の際、多くの支援を受けた。自分たちも力になりました。組合員の皆様からの温かな気持ちは、被災地にしっかりと届けた。」と話しました。

### 母親と赤ちゃんのスキンシップ「ベビーマッサージ教室」 新たな世代をJAに



子どもに話しかけながらベビーマッサージを行う参加者

J Aは6月9日、北上支店(北上市流通センター)で地域住民対象のベビーマッサージ教室を開きました。  
教室には7人が参加し、講師の高橋恵美さんからマッサージの意味や効果を学び、我が子に微笑みかけながら優しく触れ、スキンシップを図りました。参加した高橋城子さん(37)は「息子が心地良さそうで嬉しかった。興味があったので、声をかけてくれた渉外担当者に感謝。」と話しました。  
募集は、JA活動になじみの薄い層にも参加してもらおうと、支店の渉外係が生後3〜10カ月の乳児のいる家庭に声かけ。顔なじみの渉外担当者からの紹介は安心できたと好評でした。

### 組合員・地域住民と交流深める 岩崎支店「手作りランタン講座」



ランタンを作りながら支店職員と交流する参加者

J A 岩崎支店(北上市和賀町)は6月15日、組合員や地域住民対象の「手作りランタン(照明)講座」を開きました。  
講座に参加した6人は、支店職員から教わりながら花やフクロウなどの柄を熱心に切り貼りし、鮮やかな和柄のランタンを完成させました。参加者の八重樫真美子さん(64)は「忙しい毎日を過ごす中でゆっくと物作りができる機会をもらえた。楽しかった。」と笑顔を見せ、高橋信子支店長は「気軽に支店に足を運んでもらうきっかけを作ってほしい。」と語りました。  
今後も、同様の講座を2回開く予定です。次回は8月2日に、ちぎり和紙でうちわを作ります。

### 花巻農業高校生「海龍包」を開発

東日本大震災の被災地を食で笑顔にしたい



大槌町内の学校給食用に心を込めて「海龍包」を作る同班メンバー

花巻農業高等学校食農科食育研究班3年生は、東日本大震災の被災地を食で笑顔にしたいと三陸産食材を使用した「海龍包」を開発しました。  
中華料理の小籠包から着想を得て、同班6人が(有)カスイと共同開発。ホタテや茎ワカメ、白金豚などを混ぜ生地で包んでいます。ジュシーな食感になるようゼラチン状にしたスープ、同校製造の梅ジャムやみそを加え、オリジナルの味に仕上げました。  
6月9日には、同班メンバーも製造に携わった1760個を大槌町内の全小中学校の給食として提供。児童にパネルを使って栄養面や商品説明し、復興や開発への思いを伝えました。同班の昆美緒さん(18)は「被災地に届けることに意味がある。子どもたちがおいしいありがとうと言ってくれて嬉しかった。」と笑顔をみせました。

### 小麦優良種子生産に向けて

農事組合法人「なべくら」小麦採取ほ場雑草抜き



一斉にほ場に入り異品種の穂を取り除く組合員

花巻市の農事組合法人なべくらの上新田支部は6月4日、小麦採取ほ場の雑草抜きを行いました。  
法人は、水稲を中心に、小麦やハトムギ、大豆やエダマメなど211haで栽培しています。同日は小麦採取ほ場を管理している同支部員22人が、10haのほ場の小麦の生育や雑草の発生状況を確認し、約7時間かけて異品種の穂を抜き取りました。  
種子生産は基準が厳しく、ほ場での審査が2回、6月から7月末の収穫後にも発芽試験や農産物検査などさまざまな審査があります。市川薫支部長は「地道な作業が一番大切。支部員が総出で作業することで優良種子生産への意識も高まる。」と汗を拭きました。組合員たちは、今秋の播種用として全国の小麦生産者のもとへ届けられるまで、徹底した管理のもと栽培します。